

学校だより 令和5年10月号



文蔵小通信



さいたま市立文蔵小学校

〒336-0025 さいたま市南区文蔵5-16-29

TEL 863-0721 FAX 836-1583



[文蔵小ホームページ]

主体的に学び続ける

校長 渡邊 勝利

記録的な猛暑も峠を越え、徐々に秋めいてきました。秋は爽やかで何をするにも相応しい季節です。「○○の秋」と言われることも多く、スポーツの秋、食欲の秋、学問の秋、読書の秋などを思い浮かべることと思います。

そこで、今回は学問に関するお話をしたいと思います。

「天は人の上に人をつくらず、人の下に人をつくらず」

一度は聞いたことがある方も多いのではないのでしょうか。これは明治時代に空前のベストセラーとなった『学問のすすめ』からの引用です。著者は、慶應義塾大学の創設者であり、一万円札の肖像画となった福澤諭吉という人物です。誰もが同じ権利をもち、生まれによる身分の上下はない、と解釈できます。ただし世界を見渡すと、裕福な人や貧しい人がおり、一見すると身分の上下はあるようにも思われます。それに対して福澤諭吉は、「学んだか学んでいないかの差」と述べています。つまり、この本を通して、学び続ける大切さ、努力を続ける大切さを訴えているのです。現代でいう生涯学習です。三十代、四十代、五十代…熟年期になっても、学び続ける大切さを国民に示したのです。

さらに、次のようにも言っています。

「進まざる者は必ず退き、退かざる者は必ず進む」

前進しないものは必ず後退し、後退しないものは必ず前進する、と解釈できます。どんな状況下であっても、常に前に進んでいくことが必要であることを奮起させてくれる言葉です。同時に、辛いとき、苦しいときには耐え忍び、後退しなければ、結果として前進できるとも言っています。我々を取り囲む社会情勢は、刻一刻と変化を続けています。時代の流れに取り残されることなく、常に学び続け、前進していくための道標にもなる言葉です。

本校の令和5年度の重点目標の1つに、「主体的に学び続ける教職員集団の育成」を掲げています。校内研修では、「児童が自ら学び、最後までやり抜くことのできる児童の育成」を研究主題に設定し、算数の授業を中心に進めています。さらに、全教職員の年1回以上の授業公開や専門家である外部講師を招聘しての研修会を実施しています。主体的に学び続ける教師(大人)の姿は、児童にとっても重要なロールモデルとなります。人は無意識のうちに「あの人のようになりたい」というロールモデルを選び、その影響を受けながら成長していきます。児童にとって最も身近な存在である教師(大人)一人ひとりが、その職責を自覚し、行動や背中を通して訴えることのできる存在でありたいと強く思います。

さて、10月7日(土)は、文蔵小学校の運動会です。今、学校では運動会の練習がたけなわです。校庭や体育館からは、子どもたちの元気な声や音楽が聞こえてきます。

今年のスローガンは、「力を出し切り、成長を感じられる運動会」です。ここまで練習を積み重ねてきた子どもたち一人ひとりの成長した姿をご覧いただくことができると幸いです。温かいご声援を宜しく願います。

○文蔵地区合同防災訓練 9月9日(土)

文蔵地区の合同防災訓練が4年ぶりに開催されました。前日に台風13号が上陸し、当日も雨が降っていたため開催が危ぶまれましたが、予定を一部変更し、実施されました。煙体験や消火訓練、応急救護、AEDの取扱い、水害避難の講話等を通して、「自助・共助」の大切さを参加者全員で共有することができました。

多くの関係者・地域の方にご協力いただいたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

